

中華民國國家試驗 CBT 施設報告書 2015

視察日時：2015 年 7 月 17～20 日

場所：台湾考選部 (examination center)

面会者：周玉山 (考試院考試委員長)、高鳳仙 (監察委員)、董保城 (考選部部長)、
黃慶章 (考選部司長)、劉克明 (高雄医学大学教授)

視察者：奈良信雄、高木 康

1. 医学部関連

- 1) 学年
- 2) 医学部数；13 施設
- 3) 医学部学生：約 1,300 人 (人数にばらつきがある)
- 4) 7 年制 (1～4 年；講義、5～6 年；クリニカルクラークシップ、7 年；インターン) CBT のステップ(1)は 4 年次終了時に、インターン終了時に OSCE を行い、これに合格した者がステップ(2)を受験する。
- 5) 2013 年入学生から 6 + 2 年制に移行した。1～4 年は臨床実習前学習、5～6 年はクリニカルクラークシップ、その後 2 年間の臨床研修 ステップ(1)受験は同じであるが、ステップ(2)はクリニカルクラークシップ終了時に行う。

2. CBT 関連

- 1) ステップ 1：医学(1)と(2)；解剖学・組織学・生理学・病理学などの基礎医学 (70%) と臨床関連知識 (30%)
- 2) ステップ 2：内科・外科・産婦人科など)
- 3) 日程：7 月 18 日

ステップ(2)

9:00～11:00：医学(01)包括内科・家庭医学 80 題/120 分

12:55～14:55：医学(02)包括小児科・皮膚科・神経科・精神科 80 題/120 分

15:20～17:20：医学(03)包括外科・骨科・泌尿器科 80 題/120 分。

7 月 19 日

9:00～11:00：医学(04)麻酔科・眼科・耳鼻咽喉科・産婦人科・復健科 80 題/120 分。

受験生：1,322 名で、合格率は 90%程度。今年度は約 94%。

不合格者：次年度にチャンスがあり、再試験の回数に制限はない。

ステップ(1)

12:55～13:55：医学(01) 解剖学・組織学など 100 題/120 分。

15:29～17:20：医学(02) 生理学・生化学・病理学など 100 題/120 分。

受験生：2,213 名で合格率は 50%程度。台湾以外の医学部を卒業した受験生も

ある。 試験終了直後に合格率が出て、今年は約 62%。

受験料：3,000 元（OSCE の同額）

- ・ 全国の医学部を 4 グループ（臺北・臺中・臺南・高雄）に分けて、一斉に実施している。
- ・ 試験当日・試験直前に試験問題をインターネットで各試験場に送信する。パスワードで開く。
- ・ すべては中央管理で試験場のチーフ管理者（20 年間勤務）がすべてのトラブルに対応するシステムである。
- ・ 各グループの管理者は中央から派遣されており、チーフ管理者にトラブル内容を知らせて、適切な対応を指令される。
- ・ トラブルがあった場合には、職員が問題を輸送する。

4) 問題のプール化に関して

ステップ(1)と(2)：基本的には約 10 倍の問題のプール化を行っている。

ステップ(1)：2,000 題、ステップ(2)：3,200 題

各学会の推薦委員が問題を作成する。

ブラッシュアップを行う。主文や選択肢については、記載されている教科書のページと行目を記載する。

ブラッシュアップでは「易」「中間」「難」に分類して 30、40、30%の比率で出題する。合格点を 60%とするための方策。

合格点は 60%としている。絶対評価であり、IRT は用いていない。

5) 試験問題

公開している。

このため、問題の復元は行われていない。

医系 CBT は今年度が初めてであるので、今後のことは分からない。

6) ブループリントなど

ブループリントは作成している（中国語）

マニュアルも作成している（中国語）

これらは HP に提示されている。

7) CBT での工夫

マルチメディアは使用していないが、現在使用を考えている。

（歯学系では動画がある？）

画面上の写真を拡大することができる。

試験問題は統一されているが、試験番号はランダム化され、選択肢の順番も異なっている。

OS は Windows である。

45分終了時に退出できる。これは歯学系での60分試験でも医学系の120分試験でも同様である。

計算紙を配布して、多少複雑な計算問題を出題している。

8) CBTの導入

医科が2015年だが、2004年に歯科・薬科で実施されている。

コンピュータは会社のものを使用している(台湾製)

3. 全般

受験料：OSCEとCBTともに3,000円で合計6,000円

受験は2回/年で、7月と2月の2回。

受験票：写真は添付されていない。大学が発光しているIDを携帯するので、これを用いて本人確認を行っている。

CBTの年間スケジュールは1年前、7月をめどに行っている。

コンピュータ専門職が5名、会場に待機して備えている。

CBTとOSCEの合格が必要であり、不合格の場合には不合格科目のみ再受験。

4. OSCE

ステップ(2)のCBTの前に行い、OSCEが合格しないと、ステップ(2)を受験できない。

OSCEは5月に行う。

ステーション数は12で、8つはSPステーション、4つはクリニカルスキル(縫合など)である。

1ステーションは10分(実技：8分、移動：2分)

全国に23センター(大学と大規模病院)で行い、評価者は厚労省所属?(Minister of Health and Welfare)

5～8年後にOSCEセンターを試験場内に建設予定であり、13階建てでえ、5階がOSCE専用フロア。12のステーションルームを構築予定である。

この時には、4区間のOSCEセンターはそのままにして、1つだけ残し、OSCEセンターで集約的にOSCEを施行予定である。

合格率は約98%。